北から南から

女子力で地域の命を守る
―「隅西災害時サポート隊」の挑戦と絆―

東京都墨田区 隅田西町会　副会長
防火防災部長　福井 幸喜

1 はじめに：なぜ、いま「女性の視点」なのか

災害は時を選ばず、その地域が抱えるリスクは、そこに住む人々の暮らしと密接に結びついています。東京都墨田区の一角、隅田西町会。ここは戦前からの古い木造住宅が密集し、狭隘（きょうあい）道路が入り組む、いわば「災害時の総合危険度が高い」地域です。

この地で平成20年８月に結成された「隅西災害時サポート隊」は、単なるボランティアグループではありません。地域に深く根を張り、日常の「繋がり」を災害時の「生きる力」へと変換する、戦略的かつ献身的な組織です。本稿では、隅西災害時サポート隊がどのようにして地域防災の最前線を切り拓いてきたのか、その活動の軌跡をご紹介します。

2 結成の背景：身近な危機感から生まれた絆

隅田西町会地域は居住者の高齢化が進み、災害時の避難や安否確認において非常に高いハードルが存在します。そんな中、「昼夜を問わず地域にいる時間の長い女性たちが、一人も見逃さずに仲間を守らなければ」という切実な想いが、サポート隊誕生の原動力となりました。

「女子力高めなサポート隊」という名称には、単なる女性による活動という意味を超え、細やかな気配り、多様なコミュニティへのアクセス力、そして「誰も取り残さない」という意志の強さが込められています。

3 「見える化」による確実な安否確認

隅西災害時サポート隊の活動の核となるのは、要配慮者や一人暮らし高齢者世帯の詳細な把握です。

第一に、防災マップの独自更新です。危険箇所や対象世帯を明記したマップを自ら作成し、定期的な会議を通じて常に最新の状態に保っています。

第二に、「ついで」の防災です。老人会の映画上映会や誕生日会など、高齢者が集まる場へ積極的に出向き、防災講話や相談を行っています。この何気ない「対話」こそが、災害時に誰がどこにいるかを把握するための、最も強力な情報源となっているのです。

防災訓練実施に向けた会議

4 「スタンドパイプ」を活用した実践的訓練

写真にあるとおり、隅西災害時サポート隊はスタンドパイプを活用した実践的な訓

スタンドパイプを活用した防災訓練

日々の活動が放映

日頃の訓練成果を発揮した防災コンテスト

練を積み重ねています。ただ操作を覚えるだけでなく、あえて「狭隘道路」や「障害物」という負荷をかけ、訓練中の意思疎通を「ジェスチャーのみ」に制限するなどの工夫を凝らしています。

消防署主催の防災コンテストで毎年上位入賞を果たす背景には、こうした「想定外を想定する」徹底したリアリティの追求があります。厳しい訓練は、住民の「いざという時、自分たちが動く」という自信と責任感へと繋がっています。

5 地域全体へ広がる「防災の輪」

隅西災害時サポート隊の活動は、隊員内だけで完結しません。中学生へのスタンドパイプ操作指導を通じて防災意識を次世代へ継承するほか、町内一斉メールや広報紙による情報発信を行い、住民全員を巻き込んだ防災体制を構築しています。

さらに、転出した元隊員が移転先の町会で同様の活動を紹介するなど、隅西モデルが他地域へと静かに、しかし確実に波及している点も特筆すべき成果です。

6 おわりに：防災は「日常の延長線上」にある

隅西災害時サポート隊が最優秀賞を受賞した理由は、その「持続可能性」にあります。特別な装備に頼り切るのではなく、住民同士の顔が見える関係性を守り、日常の些細な変化をキャッチできる体制を構築しているからです。

「誰かを守る」という強い意志と、それを支える日々の地道な積み重ね。隅西災害時サポート隊の活動は、日本全国の木造密集地域が抱える課題に対する一つの「解」を示しています。防災とは、災害が起きたときだけに行うものではありません。日常の暮らしの中に、命を守るための知恵と絆を織り込んでいくこと。隅西災害時サポート隊の「女子力」は、これからもこの街の安全を温かく、そして力強く照らし続けることでしょう。